キャラクター名	プレイヤー名
中村 マクロ	

シンドローム	バロール ノイマン	ワークス	UGN支部長C	カヴァー	カフェの従業員
オプショナル		年齢	32	性別	XX
覚醒	感染	衝動	加虐	初期侵食率	31 %
出自	待ち望まれた子	経験	ニュース	邂逅	保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	1			1
感覚	1	0	0			1
精神	5	1	0	1		7
社会	2	0	0			2

HP	29
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
殴る	ＲＣ	7r+1		5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
支部長	P 好奇心	N 不安		
マシロ（双子の姉）	P 一体感	N 恐怖		
霧谷さん	P 親近感	N 憐憫		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	6	残り財産P：	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ブラックマーケット	1	—	常時	至近	自身	—	—	
効果：	常備化P、LV*10							
メモリー	★							
効果：	決してなくせない、彼女【伊藤灯火】との思い出。							
勝利の女神	4	4	オート	視界	単体	—	100↑	
効果：	判定の達成値LV*3、1ラウンド1回							
戦術	2	6	セット	視界	シーン	—	—	
効果：	メジャーアクションのダイスを+LV							
インスピレーション	1	2	メジャー	至近	自身	—	—	
効果：	直接質問できるLV回							
死神の瞳	2	3	メジャー	視界	単体	RC	—	
効果：	対象が次に受ける攻撃に攻撃固定値（LV+2）D							
悪魔の影	★	5	メジャー	視界	単体	RC	—	
効果：	次に受ける攻撃に対してリアクションを行えない							
地獄耳	★	—	メジャー	至近	自身	自動	—	
効果：	起きているすべての出来事を見聞きする							
仕組まれた幸運	★	—	メジャー	至近	自身	自動	—	
効果：	幸運を引き寄せる							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

成長記録
１回目　新規イージーエフェクト　声なき声取得　他はレベルアップのみ
２回目　妖精の手３を取得、他はレベルアップ

　黒髪緑目の妖艶な笑顔が特徴的な謎めいた女性。
　彼女の名は中村莫芦。きさらぎ市にあるカフェの副店長を、双子の妹と共に務めるただのオーヴァードである。
　店長であり、きさらぎ市UGN支部の支部長である【解働 零】とは、妹、そして【伊藤 灯火】共々幼馴染だった。ある日のこと、双子と灯火はいつものように姦しく、石にぶつかったか何かで入院して以来、いつにもましてそっけない零の退院祝いを買う、という名目でデパートに遊びに来ていた。
　その帰り道、バスに揺られながら最近の零の付き合いの悪さについて愚痴っていた三人。しかし、突然バスは揺れたかと思うと謎の力によって中空に放り上げられ……

横転した。

炎上する赤い炎に、双子を庇うように立つ灯火のもっと紅い髪の毛がよく映える。
「綺麗」そうつぶやいたのはマシロだったのか、マクロだったのか。
零にこのお見舞いを渡せなかったのは、ちょっとだけ心残りだな。
指先が冷たくなっていくのを二人は感じながら、ゆっくりと目を閉じた。

…何かが流れ込むような感覚がある。ドクン、ドクン、と心音が五月蠅い。それに、誰かが「ごめんなさい、ごめんなさい……！」と謝る声が聞こえる。

目を開くと、灯火が涙をこらえながら私の手を握っていた。「ごめんなさい、私が間に合わなかったせいであなたを達は……」
ああ、力が私の中に暖かな力があるのを感じる。そして灯火にも同じ力があることがわかるの。きっと零も同じなのね。私たち、まだ一緒にいけるわ。だからね